

こまち・るぴなす通信

Life Colors～生活に彩りを

OCTOBER
2026
VOL.04

Prepared, Protected and Connected

近年、自然災害の発生や感染症への対応など、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。安心して暮らし続けるためには、日頃からの備えに加え、地域で支え合うつながりが欠かせません。菊水こまちの郷では、「備える・守る・つながる」を大切にしながら、防災対策や安全なサービス提供、地域との交流活動を進めています。今号では、ご利用者が安心して過ごせる環境づくりと、地域とのつながりを育む取り組みについてご紹介します。

Planning for the Unexpected

災害への備えは日頃から

近年、全国各地で地震や豪雨などの自然災害が発生しており、いつ何が起こっても不思議ではない時代となっています。特に高齢者は避難や生活環境の変化による影響を受けやすいため、日頃からの備えが重要です。災害発生時に迅速かつ適切に対応できるよう、訓練や防災体制の整備を継続し、安心して生活できる環境づくりを進めていくことが求められています。

当施設での防災への取り組み

菊水こまちの郷・るぴなすでは、災害発生時にご利用者の安全を確保し、必要な介護サービスを継続できるよう、日頃から防災対策に取り組んでいます。

定期的な避難訓練では、火災や自然災害を想定し、避難経路や誘導方法を確認しています。また、災害時にも事業を継続できるようBCP（事業継続計画）を整備し、継続的な見直しを行っています。

さらに、非常食や飲料水などの備蓄品を管理し、ご利用者とご家族が安心して過ごせる施設づくりに努めています。

■ 避難訓練の様子



避難経路や誘導方法を確認し、迅速な対応に備えています。

■ BCPへの取り組み

災害発生時においても、ご利用者の生活を支え続けられるよう、BCP（事業継続計画）を整備しています。研修や訓練を通じて計画内容の確認・見直しを行い、非常時にも必要な介護サービスを継続できる体制づくりに努めています。また、自然災害や感染症の発生を想定し、平時から対応手順の確認や体制整備を進めています。

■ 備蓄品の管理



非常食や飲料水、衛生用品などを備蓄し、災害時に備えています。定期的に数量や使用期限を確認し、必要に応じて入れ替えを行っています。

Community Connections Build Peace of Mind

地域とのつながりが安全を作る

安心して暮らし続けられる地域づくりには、防災への備えだけでなく、人と人とのつながりも欠かせません。当施設では、地域の皆さまとの交流を通じて、支え合える関係づくりを大切にしています。今回は、子どもたちとの交流や健康フェアなど、地域とのつながりを育む活動をご紹介します。



子どもたちとのふれあいを大切に



菊水こまちの郷では、菊水いちい認定こども園との交流を毎年行っています。園児の皆さんが施設を訪れた際には、歌の披露や手作りのメダルのプレゼントをしていただくなど、ご利用者の皆さんとの温かなふれあいの時間となっています。

また、ご利用者がこども園を訪問し、園児の皆さんの元気な歌声や踊りの発表に触れる機会もあります。子どもたちの姿は、ご利用者の皆さんの笑顔や楽しみにつながっています。

こうした交流は、高齢者と子どもたちが世代を超えてつながる貴重な機会です。ご利用者の皆さんにとっては地域の子どもの成長を感じられる時間となり、子どもたちにとっても高齢者や介護施設を身近に感じるきっかけとなっています。これからも交流を通じて、地域とのつながりを育んでいきたいと考えています。

“Connecting Through Health

菊水こまちの郷 健康フェア2026

10月24日（土）に初めてとなる「菊水こまちの郷 健康フェア2026」を開催します。

フェアでは、【メタボ先生】【脳年齢測定】【ベジチェック】の健康測定をはじめ、施設見学会や介護保険相談コーナー、お子さま向けのバルーンアートなど、世代を問わず楽しめる企画をご用意しています。

このフェアは、地域の皆さまの健康づくりを応援するとともに、健康をきっかけに気軽に集い、交流できる場になればとの思いから企画しました。地域の皆さまに支えていただいていることへの感謝を大切にしながら、普段はなかなか施設を訪れる機会のない方にも、気軽に足を運んでいただける場になればと考えています。

健康のこと、介護のこと、そして地域のことを身近に感じていただける機会として、新たなつながりが生まれるきっかけになればと願っています。



Safety Through Risk Management

リスクマネジメントとは

介護現場におけるリスクマネジメントとは、「事故を起こさない」ことだけでなく、「リスクを予測し、組織全体で共有・対策する仕組みづくり」を行うことです。ご利用者の安全を守り、職員が安心して働ける環境を整えるために欠かせない取り組みです。ご利用者の「安全性の確保」と「QOL（生活の質）の維持」の両立を図りながら、適切なリスク管理を行うことを重要視しています。

■ 介護現場における3大事故リスク

- ◎転倒・転落～歩行時の転倒やベッドからの転落など
- ◎窒息・誤嚥（ごえん）～食事を喉に詰まらせる窒息や、食べ物や水分が気管に入る誤嚥など
- ◎誤薬～服薬の時間を間違える、他の方の薬を服用させてしまうなど

■ご利用者の安全を守るため、4つの視点をもとに事故防止に取り組んでいます

① リスクの把握 事故やヒヤリハット事例を収集し、事故につながる危険要因を確認します。 ※ヒヤリハットとは、事故には至らなかったものの危険を感じた出来事のことです。	② 原因の分析 ご利用者の身体状況や認知機能、生活環境などから事故の要因を分析します。 主な分析項目 ・身体機能の低下 ・認知機能の変化 ・居室環境や照明 ・情報共有の不足	③ 予防対策の実施 分析結果を基に対策を検討し、施設全体で実施します。 主な取り組み ・マニュアルの整備 ・職員研修の実施 ・環境改善 ・福祉用具の活用	④ 効果確認と見直し 事故発生後は原因を再検証し、再発防止策の改善につなげています。
--	--	--	---

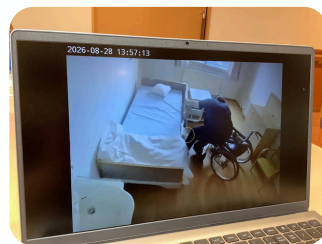
Our Approach to Safety

転倒・転落事故防止への取り組み

- ①見守りカメラ～居室内の状況を確認し、転倒・転落の危険性を早期に把握しています。事故発生時には原因分析や再発防止にも活用しています。
- ②自動ブレーキ付車椅子の導入～立ち上がり時や移乗時の転倒リスク軽減のため、自動でブレーキが作動する車椅子を活用しています。



転倒リスクの把握に活用している見守りカメラ



事故発生時の映像を確認しながら、事故の原因分析と再発防止に役立てています。



福祉用具を活用し、安全な移動を支援しています。

Seasonal Health Tips

秋冬の“もしも”に備える

秋から冬にかけては、気温の低下や乾燥により、体調を崩しやすい季節となります。また、感染症が流行しやすくなる時期でもあり、日頃からの備えが大切になります。健康で安心して生活を送るためには、体調管理や感染症予防を心がけることが大切です。ご自身やご家族の健康を守るために、身近な感染症対策について確認してみましょう。

Be Prepared for Flu Season

インフルエンザから考える感染症予防

～日頃からできる予防のポイント～

インフルエンザは、毎年秋から冬にかけて流行しやすい感染症です。感染が広がると、学校や職場、ご家庭など日常生活にも大きな影響を及ぼすことがあります。感染症を予防するためには、流行してから対応するのではなく、流行する前から備えておくことが大切です。では、私たちはどのようなことに気を付ければよいのでしょうか。日頃から実践できる4つの感染症予防のポイントをご紹介します。

- ① 外出後の手洗い
手洗いや手指消毒は、病原体を体に付着させず、周囲に広げないための基本的で効果的な感染症予防です。
- ② 換気
室内に漂うウイルスなどを外へ排出し、感染リスクを減らすための大切な予防方法です。
- ③ 体調管理
十分な休養や栄養をとり、体調の変化に早く気づくことで、感染や重症化の予防につながります。
- ④ 早めの対応
発熱や咳などの症状がある場合は、無理をせず早めに相談や受診を行うことが大切です。



外出後の手洗いうがい



換気の様子

Connect & Learn More

安心して暮らし続けるためには、防災への備えだけでなく、日々の安全や健康を支える取り組み、人とのつながりも大切です。今回の広報誌では、「備える・守る・つながる」をテーマに、施設でのさまざまな取り組みをご紹介します。これからもご利用者、ご家族、地域の皆さまとのつながりを大切にしながら、安心して過ごせる施設づくりに努めてまいります。

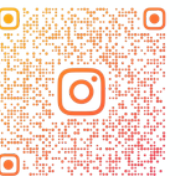
ひとりと向きあう。
社会福祉法人
溪仁会

発行：菊水こまちの郷
発行責任者：施設長 土井 陸維

SNSで施設の様子を紹介しています。ぜひご覧ください！



菊水こまちの郷（公式）



@KOMACHINOSATO_RUPINASU

〒003-0814
札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64
TEL (011) 811-8110